

近さ再編の成功事例としての居場所づくり実践

—事例研究からの検討—

○ 東海大学 妻鹿 ふみ子 (会員番号 1468)

キーワード：居場所 人称的な連帯 事例研究

1. 研究目的

本研究は、持続可能な地域の福祉実現のためのアプローチについて、公共哲学の視座を用いて地縁血縁に依らないオルタナティブな親密圏（近さ）を構想し、これまでとは異なるつながりに依拠する人称的な連帯によって地域の支えあいのシステムを作ることが不可避であり実際的であることを提示するものである。具体的には(1)理念的な枠組みとしての公共哲学を地域福祉研究にどのように生かせるのかについての理論的検討を行うこと、(2)求められる人称的な連帯は誰が、どのような形で構築していくべきなのかについて、先駆的な実践を行っている実践当事者へのインタビュー調査等に基づく事例研究の分析によって、持続可能な地域の福祉のあり方を検討する。本学会においては、(2)の事例研究の分析結果について報告する。

報告者は、社会的連帯がネオリベリズムと親和的な政策によって大きく後退しつつあると共に、地縁血縁に依拠した顔の見える人称的な連帯も脆弱化し、社会が分断の危機にあるとの認識に基づき、オルタナティブな親密圏の構想が不可避であることをこれまでの研究で明らかにしてきた。本研究ではこれを発展させ、(1)「べき論」の検討を内外の政治思想の言説分析によって行うこと(2)「できる論」の検討としては、親密圏（＝近さ）の再編に成功していると思われる実践事例の分析を行うことによって、「市民的徳性」を有する人びとによる地域の支えあいがオルタナティブな人称的な連帯を構築し、それが新たな「親密圏」を形作るのではないかという仮説を検証する。

2. 研究の視点および方法

優れた地域福祉実践が地縁や血縁に依らない人称的な連帯を作り出し、結果として<共通善>や<市民的徳性＝他者へのケア>という規範をも生み出していることを探索的事例研究により明らかにする。このように、地縁血縁に依らない人称的な連帯を作り出すことに成功している事例を分析し、成功要因を探ることは、社会的連帯が後退局面にある地域社会において、今後思想が社会の課題にどのように応答しうるのかを検討する際のひとつの指標となると思われる。

具体的には、先駆的な実践を行っている事例について、活動を立ち上げた創設者あるいは現在の経営責任者を対象に、インタビューガイドを用いたインタビュー調査（半構造化面接による）を行うこと、インタビューの際に非参与観察を行うこと、先行研究及び既刊の当該事例に関する文書の分析を行うことによって、少数事例の探索的事例研究を行った。

インタビュー調査の対象団体の選定は、基本的には報告者と既に面識のある実践団体から行ったが、具体的な選定基準は、例えば関連団体や学会などから表彰される、優れた事例として新聞や雑誌、保健・医療・福祉関係の広報媒体に取り上げられるといった形で何らかの方法で第三者から評価されている、という点においた。当初は7箇所の事例を選定し、電話や訪問による予備的なインタビューを行った上で、4団体を抽出し、あらかじめインタビューガイドを送付した上で当該組織の活動場所を訪問してインタビューならびに非参与観察を実施した。調査は予備的調査を含めて2013年8月～2014年2月に行った。調査の分析は、質的内容分析、KJ法B型図解によって行い、事例研究の素材とした。

3. 倫理的配慮

インタビュー実施にあたっては、日本社会福祉学会の倫理規定を踏まえた研究計画書を作成した上で東海大学健康科学部倫理審査委員会に倫理審査を申請し、承認を得た。インタビュー対象者に対して内容についての説明を行った上で同意書にサインを得て、その同意書を交換している。事例名称の公開についても了解を得ている。

4. 研究結果

小地域を活動範囲として、地域の人びとが援助者、被援助者のボーダーを超えて集うことのできる〈場〉としての4事例の〈居場所〉の事例の概要は以下のとおりである。

名称	なじみ庵	さくらホーム	ひなたぼっこ	のほほん村
スタート	2005年	2004年	2009年	2011年
組織形態	NPO法人	有限会社/NPO	大規模NPO法人	NPO法人
立地	栃木県那須塩原市・西那須野駅周辺の商業地	広島県福山市鞆・古くからの港町、商業、住宅地	仙台市青葉区の住宅地	広島県福山市瀬戸町。都市郊外の農地、住宅地
主な機能	居場所・食堂	高齢者ケア/拠点	居場所(宿泊・食堂)	居場所・カフェ
アクセス	送迎車あり	送迎車あり	なし	送迎車あり
めざすもの	街中の縁側で、ケアされる人から支え合う人へ。	小さな拠点で要介護者を支える。介護はプロ、支えは地域で。	地域で支え合う関係づくり。断らないで受けとめる。	誰にとっても自由に使える制度に依らない居場所

5. 考察

居場所設立のきっかけや設立者の思い、地域性や具体的な機能はそれぞれの事例で異なっているが、従来の地縁や血縁に依拠しないオルタナティブなつながりが生み出されて居心地の良い〈居場所〉が形作られている点は共通していた。また、実践の営みの基盤に〈公共善〉(=共通善)の思想や〈他者へのケア〉のまなざしが存在することも示唆された。

※本研究は科学研究費補助金基盤研究(C)「人称的な連帯の再編による地域の支え合いのあり方」(2013年～2015年)研究代表妻鹿ふみ子の成果の一部である。